

岡崎嘉平太記念館

Vol. 5
2006.7

だより



ふるさとに寄せて

：私の生まれた村は今の岡山県上房郡賀陽町（現在の加賀郡吉備中央町）大字北、前には吉備郡大和村といった。村の北には大和山（おおわさ）が優しい稜線を描いてそびえている。北村はその裾、いや膝に当たる猫額大の高原である。私は幼年の毎日を、この山を仰ぎつつその膝の上で遊び暮らしたのである。村の中を流れる川は、豪溪を経て榎谷川に入り、高梁川に注ぐ。子供心に焼き付けられている山や川は、高く大きい。飛びそこねて溺れかかった川も、今日では一またぎにすぎぬ。登るに骨折った土手も、今の私の背丈ほどしかない。が、眼を閉じれば、今でもこの山も川も土手も大きく高く浮き彫りされてくる。村の中央の丘の上にある古刹妙本寺の鐘の音さえ、あの森を越えて聞こえてくる。

五十年余りの歳月を経て、千里の涯にさすらいつつ、

挙頭望山月 頭を挙げて山月を望み

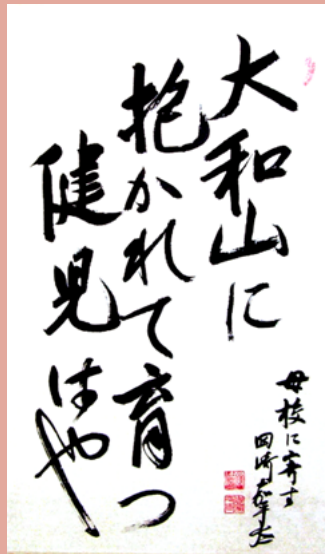
低頭思故郷 頭を低（た）れて故郷を思う

と李白の詩句に深く共感しながら

大わさに抱かれて育つ健児はや

と、ふるさとの子供たちの清らかな幸福を祈らずには
いられない。

岡崎嘉平太氏遺墨



岡崎嘉平太記念館所蔵

ませ翌年五月博多に上陸、いったん荒野原の東京の宅に帰ったが、郷里に疎開したまま病んで、東京に帰れぬ母の許に駆けつけた時のふるさとの印象は、十七年を経た今日も、その日のままの姿で眼前に彷彿する。ふるさととはまことにありがたきかな、優しきかな、である。歌にはなっていないが、そのときの印象を感ずるままに手帳に書きつけたものが、今も手許にある。

紫に夕餉の煙たなびきて ふるさとの山河来迎うわれを 山河あり国やぶれてもふるさとの 山水花はうつくしきかな

北村には先祖の墓がある。亡き子の墓がある。私は少なくとも年に一度は墓参りをする。

母の墓をむしりて小半時

亡き子や慈母の死が遠くなるにつれて、悲しかった墓参りがだんだん楽しいものになる。母や子に会えるような喜びを感ずるのである。隣村の親戚に立ち寄ってから北村へ向かう。北村へ出る山の端にかかると、すぐ眼の前に大和山が一段と高くそびえ、親しみ深く「よう帰ってきたなあ」と言ってくれるように思える。幼心に帰って足も軽くはずむ。懐かしい母の膝にもどる思いである。…

岡崎嘉平太著「中国問題への道」（昭和四十六年発行）より

新任のごあいさつ

岡崎嘉平太先生の墓前で手を合わせた頃は、小雨がしっとり辺りを包んでいましたが、大和山に上がった頃からは雨も上がり、一面霧の中に、山の峰々だけが浮かんでいました。しばらくすると、薄日が差し始め、霧が、さっと左右に流れ、周りが鮮明に見えだしました。そして、遙か遠くに瀬戸内海の海がきらきら光り、四国の屋島を望むことができました。これは、5月20日に「岡崎嘉平太国際奨学財団」の留学生を大和山に案内したときのことです。

嘉平太先生がこよなく愛したふる里。大和山。大和山の山頂から臨む大和の地は、今も野も山も、田も畑も一面緑に覆われ、その中に家々が点在し、近くでは鶯が鳴いていました。静閑な自然の懷で、しっとりと優しく、穏やかな時が流れているのを感じました。

この4月から岡崎嘉平太記念館で勤めさせていただいております。嘉平太先生のごことは知れば知るほど、数々の業績の偉大さ、お人柄の温かさと崇高さ、亡くなられるまでご壮健で活躍されたこと等々、深く感銘を受けております。そして、嘉平太先生の研究や顕彰事業の一端に関わらせていただける幸せを感じています。

今後、1人でも多くの方に、アジアの平和を希求し、日中友好に尽力された嘉平太先生のことを知っていただき、先生の志が、多くの人々の心に生きていくことを願わずにはられません。

特に、嘉平太先生が健やかに成長することを願ったこどもたちに、広く国際的な視野を持ち、信頼と愛情にあふれた嘉平太先生の生き方や高い志を伝えていきたいと思っております。そのためには、学校や他施設へ出かけ、積極的に連携を図っていきたくと考えています。

これからも新しい展示や企画展、講演会を計画していますので、大勢の皆様がおいでくださいますよう職員一同心からお待ちいたしております。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

岡崎嘉平太記念館 館長 河田 啓子



全日本空輸(株)大橋洋治会長ならびに山元峯生社長からいただいた就任祝の花と

新刊紹介



「紀要 第三号 岡崎嘉平太 講演集 3」

A5版 175ページ 価格300円

日中国交正常化実現後から晩年にかけて、更なる友好関係の構築を望み、苦悩しながらも将来への展望をもって日中両国の繁栄に尽力した岡崎氏のおもいが記された講演・講話記録四編を収録しました。

また、岡崎氏と数々の訪中を共にされた金光貞治氏の手記も掲載しました。講演記録と共に大変興味深い内容です。



岡崎嘉平太国際奨学財団16期奨学生の訪問



展示室を見学

岡崎嘉平太氏は、中国をはじめとするアジア諸国の人づくりへの支援を通じ、民族間の相互理解に、ひいては世界の友好と平和を唱えていました。

岡崎氏の遺産を基金として設立された、岡崎嘉平太国際奨学財団では、アジアの各国から、日本の大学で学ぶことを希望する優秀な学生を招聘し、奨学金等の支援を行っています。

この財団は、創立15周年を迎え、受け入れた奨学生は68名に達しています。その若者の多くは日本とアジアの架け橋として活躍しています。

新しく選ばれた奨学生たちが、毎年、岡崎嘉平太記念館を研修のために訪れています。

今年は、5月19日・20日の日程で、中国2名、フィリピン1名、マレーシア1名の奨学生が来館しました。

大和小学校の「嘉あちゃんの部屋」、妙仙寺(菩提寺)等の岡崎氏ゆかりの地を訪れた後、記念館にて、岡崎氏の思想や功績等の説明を受けました。翌日は、岡崎家の墓参、地元の方の協力で5回目を迎えた大和山頂で、桜の苗木の記念植樹を行いました。

また、新緑の美しい岡山後楽園や岡山城、夢二郷土美術館を訪れ、岡崎氏の故郷の人々や文化に触れました。



大和小学校にて



マスコミの取材を受ける様子



記念植樹の後、地元の方々と

奨学生の感想より

・たくさんの人に影響を与えて素晴らしいと思います。私も岡崎先生のようにいつかほかの人を手伝いたい [ハーブさん フィリピン大学(フィリピン)出身]

・先生が書いた“人の身になって考える”私にとってこの言葉はなつかしい思い出がある。学生時代の先生がよくこの言葉を言ってくれた。・岡崎先生はこの言葉の真理がよく分かっていたと思う

[ポイファンさん マラヤ大学(マレーシア)出身]

・先生はこの全世界を愛していると感じた・これから一生懸命勉強して自分の力を尽し両国の友好を促進すると自分に誓った [呉さん 吉林大学(中国)出身]

・岡崎先生について・私たちにとっては、よく知っている方ですが、たぶん先生にとって私たちは、まだ新しい顔だろうと思います。お墓参りで直接に挨拶して、お礼を言うことができました。先生にお会いしたらどんな話をしてくださるだろうと思いました [李さん 北京大学(中国)出身]

おかざきかへいたきねんかん

岡崎嘉平太記念館ものしりトピックス

アジアの国々から日本の大学院に勉強に来た若い人達が、岡崎嘉平太さんのことを勉強するために、毎年、記念館を訪れています。そして、町内の嘉平太



植樹

さんをつながりの深い場所へも案内しました。

小さな稲がゆれる田んぼを眺めながら、嘉平太さんの母校の大和小学校へ。奨学生は、こどもたちから、「中国語でしゃべってください」などと話かけられ、うれしそうに答えていました。翌日は嘉平太さんのお墓参りをしました。道中の景色を「トトロの



風景」と言って感激する奨学生もいました。日本のアニメをよく知っているんですね!そして大和山で記念に桜を植えました。地元の人と気さくに話し、山道を登るお年寄りの腕を抱え、手助けする姿は(左の写真)、優しさにあふれていました。私たちも見習いたいですね。

きねんかん しごと 記念館の仕事



岡崎嘉平太記念館研究室にて

5月31日、大和小学校の4年生の皆さんが、記念館に嘉平太さんのことを勉強しに来ました。写真は河田館長と安原学芸員から話をきいている時のものです。この後、展示室を見学して、嘉平太さんのすごいところをたくさん発見できました。こどもたちの熱心な姿に感心しました。



編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.kibicity.ne.jp/users/okazaki/>

Eメール okmh@kibicity.ne.jp